

基本計画中間評価に向け、患者 QOL 評価指標案を了承

3月29日のがん対策推進協議会（会長：門田守人・公益財団法人がん研究会有明病院院長）では、がん患者のQOLを評価するための指標案を了承した。

事務局が示したQOL評価指標案は、患者の“病院体験”に着目した50項目から成る（下表参照）。来院から治療の検討、入院、退院へと至るプロセスに沿って、治療についての説明に対する納得や医師等への信頼、治療に対する満足度などを患者へのアンケートにより評価する。

項目は、2013年度前半に予定しているパイロット調査で絞り込みを図るとした。約10施設を対象として実際に当該指標を用いて患者へ質問し、各項目の妥当性を検討するとともに、回答にかかる患者への負担や医療機関の実施体制、実施コストなどを検証する。

委員からは、「患者が質問に答えることで、病院との関係が悪化しないように配慮してほしい」などの要望が出された。パイロット調査で項目を絞り込んだ後、2013年度後半から2014年度に大規模調査を行い、2015年6月目途に行われるがん対策推進基本計画（2012年度から2016年度対象）の中間評価に反映させる予定。

【QOL評価の指標項目案(一部)】

受診までの経緯	症状の自覚から受診までに要した時間
診断に至る検査等	検査の手順等の説明があったか
診断確定時の説明	がんの診断についての説明は納得できたか 診断時に疑問や意見を伝えられたか
治療方針決定過程	治療開始前に他の治療法の選択肢を提示されたか 治療方針の決定に関わることができたか
情報サポート	治療開始前に患者会などの情報を入手できたか
入院中のケア	入院中、医師と話したいときに会うことができたか 担当の医師・看護師を信頼できたか
入院中の治療	知りたいことを医師等が隠していると感じることはなかったか 入院中、不安や心配事を医療スタッフと話せたか 手術に対する説明はあったか。その説明に納得できたか
退院前のコミュニケーション	退院後についての情報提供はあったか
外来・通院中のケア	心配事をすぐに相談できる場所はあるか
その他	受けた治療やケアに納得できているか

※協議会の資料を基に作成

■がん相談支援センター改善案、拠点病院の要件設定反映へ

会合では、がん診療連携拠点病院に設置されている、がん相談支援センターの活用に向けたこれまでの意見を整理した。現状ではがん相談支援センターが十分に機能しておらず、「周知する看板がないところがある」「名称や相談方法が統一されていない」など病院間のバラつきが指摘されていた他、「希少がんや地域のかかりつけ医に関する情報集積機能を持たせることが必要」などの意見が挙がっていた。

今後、これらの意見を、がん診療連携拠点病院の要件等を検討している「がん診療提供体制のあり方に関する検討会」での議論に反映させる。

次回開催予定は未定。